

松下幸之助記念志財団 研究助成
研究報告

(MS Word)

【氏名】

周 俊

【所属】(助成決定時)

早稲田大学現代中国研究所

【研究題目】

現代中国における機密文書の伝達システムに関する歴史的考察 (1948 - 1954)

【研究の目的】(400字程度)

本研究は、中華人民共和国が成立した前後の時期(1948年 - 1954年)、いわばその国家づくりの歴史的原点に焦点を当て、中国共産党内における機密文書の伝達システムの実態を考察することを目的とする。具体的にいえば、共産党の機密文書は誰によってどのように伝達されていたのかというプロセスを考察し、その最大の特徴ともいえる秘密主義の実態と限界を解明することである。これによって、中国に対する冷静かつ客観的な分析の手がかりを提供し、貴財団が目指している「国際理解・協調」の課題に寄与したい。

【研究の内容・方法】(800字程度)

古今東西を問わず、中央集権国家の歴史を考察する上で、かの地に興亡した諸政権の敷いた通信システムが各々の広大な領域支配にとっての極めて重要な鍵であったことは言うまでもなく、関連する先行研究も非常に多い。中国の場合は、周知のように、数々の王朝が栄枯盛衰を繰り返していったが、広大な地域を支配する統一的な中央集権統治体制が古来より存在しており、その統治の効率を向上させるための駅伝制に関しては数多くの先行研究が蓄積されている。その一方で、1949年に中央集権国家の再建を実現し、広大な領域を今日まで統治してきた中国共産党政権の通信システム・機要交通については殆ど知られていない。

「機要交通」とは、機密かつ重要な通信を意味している中国共産党流の隠語であり、すなわち党組織間で人の手から手へ内部文書を運送する秘密工作を指している。現代中国の統治構造を理解する上で通信システムとしての機要交通は非常に重要なテーマであるが、それは研究者に意識され難い領域、あるいは気付かされても簡単に踏み込むことのできない禁域になっているといえよう。本研究は、申請者がこれまで長らく独自に収集・蓄積してきた史料群を活用することで、より正確に、より詳しく、中華人民共和国成立前後(主に1950年代)の機要交通の制度的な展開とその実態を歴史的に分析し、この研究史の大きな空白を埋めることを目的とする。具体的には以下の3点に分けて考察を進める。すなわち、①機要交通の意味とその重要性を中国共産党史全般の見地から説明する。②人民共和国成立以前の状況を踏まえた上で、人民共和国成立以降の、機要交通の組織構造の変容過程とその要因を解明する。③機要交通という通信システムの成敗を検討する。以上の検証は、情報伝達という中国共産党史研究への新たな視座だけでなく、各国の交通・通信・郵便史を幅広く比較するための題材を提供することにつながることを期待される。

【結論・考察】(400字程度)

人間の体内に末端まで張り巡らされ、生命維持に必要なあらゆる場所に血液を運ぶ血管のように、党中央の命令が地方の末端にまで行き渡り、地方の末端の報告が党中央に上がっていくという情報の循環を具体的に支えている通信システムが、機要交通であった。革命根拠地時代の分散体制、人民共和国成立前後の党委員会主導体制、軍主導体制など様々な試行錯誤を経て、1957年に中共はソ連モデルを借用し、党委員会(機要交通)と郵便(機要通信)の二元体制下の通信システムを設立し、今日に至っている。このシステムは、中共政権の文書行政や組織内における意思疎通を円滑にするための情報環境を提供することに成功したのみならず、政治上層部の通信秘密も確実に確保されたと考えられる。要するに、党委員会・郵便二元体制下の通信システムは、共産党による一党支配を盤石なものにする上で極めて重要なものであった。

しかし、このシステムには解決し難い問題も存在していた。それは、情報の通送を担う交通員が相変わらず、中共に期待されている行動規範から逸脱する傾向があるという問題である。その複合的な要因について、本研究は、(1) 結党初期から引き継がれてきた秘密主義、(2) 郵電局の機要通信への薄い関心、(3) 交通員のモチベーション低下などを分析した。